

呉の魂「やぶ」を次世代へ

－ ヤブ女が贈る郷土愛の詰まったリーフレット －

—— 伝統文化の可視化と、教育・行政・地域を結ぶ普及事業 ——

1. 「ヤブ女」の情熱を、呉の子どもたちの未来へ

私たちは、呉のまちと呉の秋祭り文化の象徴である「ヤブ」を心から愛し、その魅力を発信する広島県呉市の市民団体「ヤブ女(ヤブじょ)」です。



ヤブ女メンバー



亀山神社にてヤブグッズを販売

呉市では、毎年 9 月中旬から 11 月の文化の日にかけて市内 40 を超える神社に「ヤブ」(神様の使いである鬼のような存在)が登場する独自の秋祭り文化が根付いています。この文化は行政主導の保存会なしに市民の「ヤブ愛」によって自律的に継承・進化しており、期間中 400 匹以上のヤブが呉市内に出現すると推定されます。

呉の子どもたちが、初めて目にする「ヤブ」を単に「怖い存在」として怖がるのではなく、「僕たちの町のヒーローだ!」と親しみを持って受け入れ、呉独自の祭り文化を大切にしてほしい…そんな願いからこのプロジェクトは始まりました。

私たちの想い:シビックプライドの根っこを育てる

子どもたちが、お祭りの音や姿にワクワクする体験は、郷土愛の原点です。難しい歴史を説くのではなく、視覚的に「楽しい」「かっこいい」と感じる入り口を作ること。それが、将来どこへ行っても「故郷は呉だ」と胸を張れる、強固なシビックプライド(市民の誇り)の根っこを育てると考えます。

2.低学年への配慮が、行政・専門家を動かす「公共の財産」に】

助成金を活用して制作した 1,000 部のリーフレットは、単なる配布物以上の社会的インパクトを生みました。

- **教育現場への導入と工夫:** 呉市内の小学校低学年(旧呉市内の小学 4 年生から 6 年生)へ配布。「やぶの衣装や特徴」を可愛らしいイラストで図解し、文字を覚えてたの子どもでも直感的に「ヤブとは何か」を理解できる内容にしました。

- **専門家グループ(栄養教諭)との強力な連携**

祭りに欠かせない「いがもち」の紹介を掲載したことで、食育のプロである「広島いがもち研究会」から賛同を受け、亀山神社の例大祭と同日開催された呉初の「いがもちサミット」にて資料を配布。伝統と食を繋ぐ架け橋となりました。

- **行政(呉市観光振興課)による評価**

ヤブ女ならではの専門知識を、子ども向けに昇華させた高いデザイン性が呉市観光振興課に認められ、公共施設(図書館)での展開につなげました。現在は呉市内の図書館や市民センター、まちづくりセンターで配布・配架されています。「子ども向けなのに大人も欲しくなるクオリティ」として、幅広い世代から注目していただきました。

3. 『広がり』: 地域や社会に知ってほしいこと

① デジタルとアナログをつなぐ、持続可能な伝承

本リーフレットには、私たちが運営し、呉の祭り情報を集約するヤブ女の Web サイトへの QR コードを掲載しました。紙媒体に興味を持った子どもや保護者が、Web を通じてさらに深い祭り情報や、各地域の開催日程にアクセスできる仕組みを構築しています。Web サイトのデザインもヤブ女代表であり、アートマネージャーである久米ゆきが担当しました。

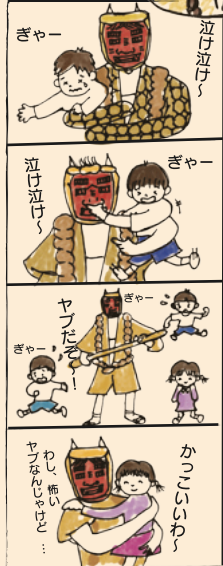
② 「好き」を「伝える技術」に変えて、社会を動かす

市民団体の「好き」という情熱が、イラストやデザインの工夫によって、栄養教諭や行政組織を動かす大きな力になりました。リーフレットが図書館という「公の場」に置かれたことで、呉の祭り文化が、観光資源としてだけでなく、次世代を育む重要な「教育資産」であることが社会に再認識されました。私たちは、この「ヤブの輪」をさらに広げ、呉の未来を明るく照らしたいと考えています。

4. 『デザイン』: 読みやすさ・分かりやすさの工夫

- **低学年特化のビジュアル設計:** 怖いと思われがちな「やぶ」を、より身近に感じてもらえるよう親しみやすいイラストで表現。デザインは久米が担当しました。お面や装束の特徴を色分けして図解するなど、視覚的な分かりやすさにこだわっています。クリエイティブの力で伝統を伝える、私たちならではの強みを活かしています。
- **情報のワンストップ化:** 「やぶの知識」「食文化(いがもち)」「最新の祭り情報(Web サイト)」を A4 用紙 2 枚分のスペースに凝縮。呉の祭りの基礎がわかる「ガイドブック」のような役割を目指しました。
- **「持ち帰りたくなる」クオリティ:** 図書館やイベント会場で、市民が思わず手に取りたくなるような、洗練されたレイアウトと温かみのあるトーンを両立させました。

※参考資料 リーフレット「呉の町はヤブだらけ。ヤブ文化を追いかけていたら、気がついたヤブ女のお話。」



大泣き子どもの登竜門?

抱っこをしてもらおうと、子どもたちが元気に過ごせるという言い伝えがあります。小さな子どもたちにとっては、ヤブは恐怖の存在。親御さんたちは一緒に写真を撮ってもらおうと必死になってヤブに我が子を差し出しますが、、、子どもたちは大号泣です。お祭りシーズンになると子どもたちの叫び声や鳴き声が響き渡るのも呉の風物詩かもしれません。それが、子どもたちが少し大きくなると、「ヤブかっこいい!」と、憧れの対象となっていく、ヤブを追いかける側になります。子どもたちの成長を感じますね。

伝説の秋祭りデザート?

呉の秋祭りシーズンに欠かせない食べ物といえば「いが餅」です。このシーズンになると和菓子屋などに登場します。色付きの米粒には、それぞれの色に意味があるので、全色のいが餅を食べたくなりますね。実はいが餅の文化は、日本全国にあるんです。愛知県東部、東北地方、そしてお隣の愛媛県松山市にもあります。始まりは平安時代とも言われていて、いが餅文化を追求しても本が1冊書けそうです。

ヤブ要チェックポイント



呉の町はヤブだらけ。

ヤブ文化を追いかけていたら、気がついた

ヤブ女のお話。



What is Yabu?

ヤブってなんだ？

こたえ

→ 広島県呉市の秋祭り期間に登場する鬼のこと

9月中旬から11月の文化の日まで毎週末呉市内の秋祭りに登場。ヤブと呼ぶことが一般的ですが、全く違う呼び方をするとところもあります。ヤブではなく、“カッパ”や“ニグロ”などそれぞれの地域の呼び名があり、個性が際立ちます。ヤブ女としては、40の神社にヤブが登場するという情報が集まっています。期間中に400匹以上のヤブが呉市内に登場すると推定されます。



Is Yabu demon? ヤブは鬼？

こたえ

→ こわい鬼ではなく、神様の使いである

通常、鬼は人間を懲らしめる立場にあります。ヤブの見た目は鬼ですが、神様の使いです。秋祭りの神事で、神様にお米を奉納する際に、そのお米がちゃんと良いお米かどうか判断する重要な役目を担っています。お米が神社に奉納される際の儀式を「俵もみ」と言っており、一見すると、人間とヤブがぶつかって喧嘩をしているようにも見えますが、お米を審査する一番重要な役目です。さらに、それぞれの神社で1番2番3番…と、ヤブにも階級があります。



What is amazing? どこがすごい？

こたえ

→ 保存継承方法が呉市独自で、すごい！

お面を彫る彫り師もいますが、ヤブに憧れて自ら面を彫り出す若者も多い！気がつくくと、ヤブが毎年増えている地区もあります。島や広島市内へ出張に出て各地の祭りを盛り上げるヤブもいるようで、ヤブが登場する地域は年々拡大しています。そもそもは、呉市中央部にしか存在していなかった文化と言われていました。ヤブになりたいと憧れを持つ子どもたちが生まれ、彼ら彼女達が実際にヤブになれるチャンスもちゃんとあります。行政機関が介入して保存会等を作るなど、文化継承システムが正式に確立しているわけではないのに、呉市では文化が衰退するどころか進化しているのは、この“ヤブ愛”が要因の1つではないでしょうか？



ヤブのすごい所 This is the amazing part

ヤブをじっくり見てみてください。同じ神社のヤブでも一匹ずつ、顔が違います。それぞれの地域で服装も全て違います。見た目はそれぞれ違っていても同じヤブ（鬼）文化なんです。こんな文化は日本全国どこを探しても、なかなか見つからないでしょう。呉市内にあるそれぞれの神社や地区で違いがあるので、ぜひ、その違いを意識してヤブ文化を見学してみてくださいね。

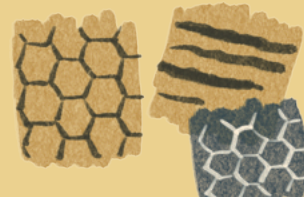
※各地の詳細をヤブ女 web サイトで公開しています。



1匹ずつ違う！？

顔

赤い顔、黒い顔、緑色に黄色に、金色？色んなヤブ面があります。口が開いていたり、閉じていたり。怖い顔も色々です。全ての顔が違います。それは1つずつ手で彫られたものだからです。ヤブ好きの若者が、憧れのヤブの面を彫って修行に励むそうです。



地域ごとの個性が光る

服

六角形の亀甲模様、虎のようなシマシマ模様。それぞれ色も違えば、模様も地域や神社で違います。黄色ベースに白、赤、緑と同じ神社でも色が違うこともあります。体に巻き付けた太い綱も、それぞれが個性的な形をしています。



必須アイテム

ヤブから棒

ヤブは、手に持つこの棒を地面に叩きつけることで、その場をお祓したり、米俵を突いたりすることで、神社に奉納されるお米の出来栄を審査していると言われています。この棒を振り回すヤブを見ると、力強いパワーを感じます！



ヤブ女

2012年9月に結成した市民団体です。実際にヤブになっている女性…ではありません。広島県呉市の秋祭り文化に登場するヤブを中心とした呉文化を愛し、愛しすぎて勝手に広報を始めた人たちの総称です。呉市のまちづくり活動をしていたメンバーで発足しました。設立当初は活動メンバーに女性が多かったのですが、現在は男女関係なく活動に参加。呉文化が大好きな人たちと一緒に活動を続けています。オリジナルグッズを作ったり、統計を取るために、スタンプラリーの企画を立てたりして活動しています。



<https://yabujo.com>

- ・ヤブ文化のこと
- ・各地域の特徴
- ・わが町ヤブ自慢
- などなど、ヤブ女自線で作った情報 web サイト

ヤブ女らしいヤブグッズを展開しています。詳細はwebサイトで！